

4 企業体（職域）新生指運動（明るい職場づくり）研修会

(1) 趣旨 企業体における新生活運動の浸透を図るため、地域内事業所の経営者、労務者および企業関係団体の役職員等指導的立場におけるひとびとを対象とし、本運動の推進方策を研修する。

(2) 期 日 会 場
40・1・20～21 勿来市植田公民館
40・2・25 郡山市公民館

(3) 参加者
イ 企業体（職域）関係者
ロ 商店街関係者

(4) 講 師 日本技術開発株式会社
経営相談所長 片山 重平

(5) 内 容 講師の講演を中心とし、質疑を中心として研究討議を行なった。

(6) 効 果 企業体における新生活運動（明るい職場づくり）の研修会をはじめから3年目であり、この研修会はその意味でよい結果を生んだものと思う。しかし、企業体についての本運動は、さらに努力しなければならないと思う。

5 働く青少年のつどい

働く青少年に対し、よい社会人、産業人としての育成をめざして仲間同志のつどいを開催した。このつどいは、仲間の親ぼくを深めるとともに、社会人としての自信と、将来に明るい希望を与えたことは効果的であった。

(1) 期 日 会 場
40・1・21～22 勿来市植田公民館
(2) 参加者 勿来市企業体青少年、公民館職員

6 国土美運動

運動を効果的に進めるために、昨年に継続して福島市にモデル地区（2地区）を設定し、重点的に指導助言を行なった。この地区がこの運動促進の中心となりその効果が周辺地域に波及し、さらに県民運動としての拠点となるように図った。

実践活動としては、オリンピック東京大会開催年であり、例年の行楽地における清掃美化運動は、もちろんのこと国土美強調月間を迎えて、「紙くずのない日本」「行列を守る日本人」のスローガンのもとに、オリンピック聖火コース関係19市町村の協力のもとに道路の清掃および周辺の環境美化運動を実施、実践をとおして地域住民はもちろんのこと周辺市町村住民の国土美意識の高揚に多大の効果をもたらした。

7 旅の新生活運動

全国の運動週間に歩調をあわせて公衆道徳の高揚を旅行者に呼びかけた。期日は8月7日より8月10日までについては、ガウルスカウト県連の協力を得て次の行事を実施した。

(1) 福島駅頭と白河駅頭での清掃美化とPR

(2) 東北本線福島・白河駅間を列車内において乗客へのPR・特に明るく心よい旅、車内をよごさない旅をモットーに呼びかけ、かみくず入れ袋を手渡し車内の清掃を実施した。

(3) 国鉄の協力を得て、「紙くずのない日本」「行列を守る日本人」の標語を県内主要駅構内に貼り出し乗客に啓蒙した。

(4) さらに、この期間中財団法人交通道徳協会の依頼により、この運動の一環として「母子者記の旅のエチケット採点」を実施した。本県よりの記者として福島市豊田町の根元由子（母）と根本俊枝（子）福島市第1小6年生が8月7日より8日の間、東京都、栃木県（日光）に取材旅行をした。また、福島県が受け入れた記者は東京都、茨城県、山形県よりの三組でそれぞれ取材に便宜をはかった。

次に、冬の旅新は12月18日より27日まで実施されたが、今年は列車内の奉仕は交通道徳協会が分担し当協議会としては、新生協から送付されたポスターを関係方面に配付して民間に対して趣旨の徹底をはるとともに、庁内県政記者クラブに要項を配付して報道についての協力を要請した。

具体的には国土美運動の一環としてモデル地区を推進母体として地域内の清掃はもちろん駅頭、公園地における清掃美化の実践と啓蒙に努めた。

たの運動を全国的規模において実施することは効果の面からみて適切であると思う。

しかしながら冬の旅新は実施しても夏の旅新ほどには盛りあがりやすく、この傾向は、全国的なものと思われるので運営の面で検討の必要があらうと思われる。

8 ま と め

この運動は人間の改善を含めて、合理的で豊かな明るい生活を樹立するという総合的課題性をもっているもので、教育、産業、福祉、厚生等における総合的計画性と指導援助と住民の運動参加の意欲が要請される。本県においては、これら各行政分野の協力体制が比較的良好であり、住民の意欲もまた旺盛である。

しかしながら、企業体についてはかなりの意識の高揚がみられつつあるが、全県的にはまだまだの感がある。